

ふくしまゼロカーボンアワード2025 (事業所版)

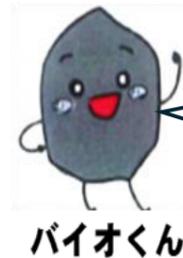
株式会社絹川建設工業の取組 テーマ：【豊かで美しい環境を未来へ】

- ・株式会社絹川建設工業では、2050年カーボンニュートラル【温室効果ガス排出量と吸収量を均衡させ、弊社としての排出量ゼロを目指すために、】未利用有機物資源であるもみ殻を産業廃棄物として焼却処分せずに、バイオ炭（もみ殻くん炭）【品名：明日つくる】に生成し、未利用バイオマスとして有効活用させ、環境負荷低減や農地施用を実施することで、廃棄物削減に繋がり温室効果ガス削減と持続可能な農業に大きく貢献できます。
- ・さらに効果的な取り組みを進めるため、他の事業所に先駆けて環境に優しい安全で安心な連続炭化装置を導入。取組により、年間90,000kg強のCO2削減が可能となります。

(地域資源のもみ殻)



(連続炭化装置)



僕が
暑い地球を
冷やしてあげよう!

バイオくん

1. 取組の背景・目的

- ・株式会社絹川建設工業は、2027年に創業50周年を迎えます。地球温暖化は、喫緊の最重要課題であります。気候変動の影響はすでに現れており、自然災害の増加や生態系の破壊や食糧問題など、私たちの生活に深刻な影響を及ぼしております。温室効果ガス排出削減や気候変動への対策が急務となっております。今、対策を講じなければ、未来の世代はより深刻な気候変動の影響に直面することが考えられます。温室効果ガス排出削減のため、弊社は、廃棄物として処理される地域資源のもみ殻を炭化させ、バイオ炭（もみ殻くん炭）【品名：明日つくる】として生産し資源循環型社会に貢献します。

2. 具体的な内容

※バイオ炭（もみ殻くん炭）【品名：明日つくる】生産プロセス

- ・完全国内産で、地域資源の安心で安全なもみ殻を県内のコンクリートエレベーターやライスセンターなどから調達し、(フレコンバックにて年間800袋強 (1袋約1,000ℓ))、もみ殻をバイオ炭として生まれ変わったアイテムです。もみ殻は、そのまましておくと、微生物により分解され、その過程で二酸化炭素を放出します。しかし、炭化することで二酸化炭素の排出を抑えることが可能となります。

(地域資源のもみ殻 工場にストック)



(もみ殻)

(環境に優しい連続炭化装置にもみ殻を投入)



もみ殻 (バイオ炭へ製品化)



バイオ炭（もみ殻くん炭）【品名：明日つくる】®

(バイオ炭使用し収穫した有機野菜だいこん)



バイオ炭を施用 (バイオ炭、トラクターにて混合)



(バイオ炭を圃場に散布)



二酸化炭素を増やさないバイオ炭は、カーボンニュートラルな特性を持つため、温室効果ガス削減、生産多様性を尊重し、持続可能な農業を目指すことができます。

3. 取組・活動の独自性、先進性、継続性、他の事業者への波及性などのPRポイント

- ・環境に優しい、安全で安心な連続炭化装置を使ったバイオ炭（もみ殻くん炭）【品名：明日つくる】の生産は、資源をできるだけ無駄なく活用し、環境への負荷を減らすことが可能となります。
- ・地球環境は、未来のテーマ、脱炭素社会の実現に向けて、多くの農業生産者や企業による排出量削減への取り組みなど事業者にも広がるのが永続的に必要不可欠だと思います。

4. 今後の計画や展望

- ・将来の農業生産者には必要な取組であり、化学肥料や農薬の使用を可能な限り減らし、資源の循環を重視することで、農業の生産過程全体を持続可能なものにする。

5. 取組・活動による地球温暖化としての効果

※みどりの食糧システム戦略

- ・株式会社絹川建設工業会長が所有する畑において、菅野文吉会長、社員応援でバイオ炭を施用し、野菜（だいこん）の生産事業を行い、品質向上と温室効果ガス削減に貢献し、評価をいただきました。
- ・環境負荷低減の取組『見える化』 温室効果ガスへの貢献と生物多様性への配慮～（みえるラベル）農林水産省より★★★★星を賜りました。

(バイオ炭・品名：明日つくる) (イメージキャラクター)



(バイオ炭施用し収穫しただいこん)



(見えるラベル)



- ・本来は廃棄処分される未利用有機物資源を、バイオ炭として再生・再利用することで、焼却による温室効果ガスの排出を抑制し、野菜の品質向上や地球温暖化対策として大きな効果が期待されます。

6. 取組・活動の様子の写真(1)

株式会社絹川建設工業菅野文吉会長が所属する川俣ライオンズクラブと合同で、持続可能なバイオマス資源のもみ殻をバイオ炭化し健全な土壌の環境改善した畑で、弊社の社員が育てたサツマイモを奉仕活動の一環として、地元川俣町スポーツ少年団及び川俣ジュニアフレンズ少年団とその保護者、合わせて約50人を招待し、立派に育ったサツマイモの収穫体験を行いました。(写真左) この取り組みは、環境保全活動と青少年育成を両立する有意義な機会となりました。更には、バイオ炭(もみ殻くん炭)『品名:明日つくる』は、土壌の物理性、科学性、生物性を改善し、微生物の生息環境を整えることで、生物多様性の向上に繋がることや科学肥料、農業の使用量を減らすことができ、環境負荷低減し、持続可能な農場を推進することも参加した皆様に理解していただけたと思います。

また、福島県立川俣高等学校の生徒は、農業体験学習の取り組みとして、近隣農家の皆様のご協力とご指導をいただき、野菜等々(キュウリ、トマト、スイカ、サツマイモ、トウモロコシ等)を生育する農業体験学習に取り組んでいます。2025年度は、環境に優しい、クールベジタブル野菜作りに取り組まれました。地元川俣町でバイオ炭(もみ殻くん炭)『品名:明日つくる』を生産・販売している株式会社絹川建設工業が支援・指導し、未利用有機物のもみ殻を炭化させたバイオ炭を校舎内の畑に施用し【食べるだけでエコ】環境保全型農業を体験しました。(写真右)



(株式会社絹川建設工業会長所有地にて、川俣ライオンズクラブと合同で開催し子供たちとサツマイモ収穫体験)



(福島県立川俣高等学校校舎内にて生徒と近隣農家の皆様によるクールベジタブル農業体験学習)

取組・活動様子の写真(2) 実例の1コマ(株式会社絹川建設工業で製造したバイオ炭【もみ殻くん炭】を施用し、温室効果ガス削減と野菜の品質向上!)

福島市下飯坂薬師地内と福島市瀬上桜木町でアスパラガス栽培を営んでいる。(グッドフィールドファーム 飯畑社長)

施用した方からの感想など

弊社より、バイオ炭を購入施用。土の環境を改善し、アスパラガスの品質の向上に努め、消費者の皆様にも味わっていただけたとお話をされています。バイオ炭施用は、作物の生育促進と二酸化炭素削減に大きな効果が見られました。



(アスパラガス畑にバイオ炭施用)



(鮮度抜群のアスパラガス)

取組、活動様子の写真(3) 実例の1コマ

福島県伊達郡国見町で大玉トマト、ミニトマト、を生産している。(近久工業 近久社長)

施用した方からの感想など

弊社よりバイオ炭を購入施用し、トマトハウス畑の土壌を改良。保水力、病害虫の軽減、肥料使用量の削減などの効果が確認され、大変に驚かれていました。バイオ炭施用で、農作物の収量増加や品質向上、肥料コストの削減が確認出来た事は持続可能な農業を推進に期待できます。



(バイオ炭を施用したトマトハウス畑)



(奇形・割れが見られないトマト!)

※他にも、町内外農業関係者や多くの皆様方に、弊社で生産した バイオ炭【もみ殻くん炭】を農地に施用していただき、環境に配慮した野菜や果物などの生産に取り組んでいただいております。

◎、株式会社絹川建設工業は、バイオ炭【もみ殻くん炭】『品名:明日つくる』の生産・販売を行い、循環型再生可能エネルギー源として活用し、土壌の環境改善、二酸化炭素削減、生物多様性の保全など、多岐にわたるメリットをもたらす、持続可能な社会の実現に貢献することが期待できると確信しています。

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、豊かで美しい環境を未来に残すためにも、地球温暖化の効果的対策の一助となるよう弊社一丸となって取り組んで参ります。